

＝＝＝

## 「企業文化と経営思想の潮流」を考える分科会の設立趣意書

◆アメリカの企業の文化と経営思想のイデオールタイプの特徴は、①概念の新基軸をデザインして、トップダウンの論理的な具体化を図る。②基礎的要素資源（市場と技術）の水平的な組合せを志向する。③適地生産を前提に設計レベルでコストを抑制する。――などにある。

◆日本の企業の文化と経営思想のイデオールタイプの特徴は、①経験と学習をボトムアップさせ、帰納的に概念を進化させる、あるいは、取り入れた新基軸の概念を円熟させて、自家薬籠中のものと為す。②保有する基礎的要素資源（市場と技術）の垂直的な擦り合わせを志向する。③新規製品の誕生後から衆智を傾けた改善と工夫でコストを節減する。――などにある。

◆21世紀の人類と世界の範となる、省資源・省エネルギーと安全・安心の地球的基盤を確立するためには、日米の企業の文化と経営思想のイデオールタイプの特徴を兼ね備えた、真のグローバルスタンダードを構築し実践することが有用かつ必要不可欠な条件になる。

◆21世紀の現下の日本、その社会と組織が直面する国内外の厳しい環境は、自らが進んで、新しい構築と実践を担わざるを得ない状況にある。また、日本はそうした挑戦をするのに相応しい、社会と組織の伝統を有し、国際的にも科学技術上ならびに地政学上の好適な立ち位置を占めている。

◆地球規模の難題に真正面から立ち向かい、21世紀の困難な世界を真摯にリードできる、新しい日本の時代が到来しているのだ。

●運営の基本について

- アブダクション研究会の内外から会員を募る。
- アブダクション研究会の前後の日程を設定して分科会を開催する。
- 共同議長は山田善教・福永征夫。事務局は岩下幸功。
- 第 80 回アブダクション研究会（2011・9・24）で議論し、合意を受けて、活動を開始する。

=====